

参加者による記録

2011年1月8日(土)

報告者：渡邊

事前研修会、結団式

場所：全日空クラウンプラザホテル成田

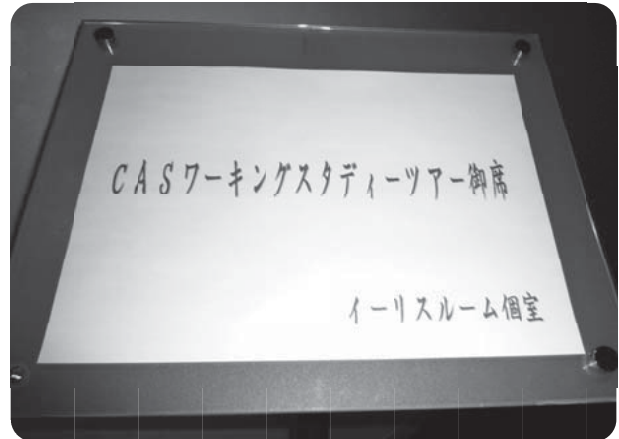
2011 CSAワーキングスタディーツアーの事前研修会・結団式が成田空港を一望できる見晴らしの良い標記ホテルの17階、「イーリス」の個室で行われた。

アジア連帯委員会(CSA) 渡邊事務局長の挨拶後、参加者全員の自己紹介。また、例年に習い今回も日替わりで団長を務めることにし、訪問先での挨拶、記録、写真の役割分担を決め、挨拶をする訪問先へのお土産を各自、分担した。

事前学習会として渡邊事務局長より、

①アジア連帯委員会の歴史・活動概要、②ラオス、タイの訪問先の説明、③諸注意事項などの説明があり、その後、航空券、出入国カードが各参加者に手渡され、税関手続き当の確認、現地ホテルなどの説明を受けた。

その後の夕食懇親会では、同ツアーへの期待などを話し合い、打ち解けたムードとなった。なお、CSA側で準備したお土産に加え、昨年に続きJFEスチール労組から鉛筆28ダース、ノート120冊寄贈いただいた。この文具は訪問先の小学校で生徒たちに手渡されます。



結団式会場看板

2011年1月9日(日)

報告者：渡邊

出発日は快晴。成田からタイ・バンコク経由でラオス・ヴィエンチャンへ移動。ホテルからシャトルバスで新国際空港・第一ターミナルへ。今回は、初めて自動チェックイン機で搭乗券を発券し、荷物を到着地ラオス・ヴィエンチャンまでスルーカーゴで送る手続きを各自でおこなった。搭乗券はバンコク着の出発便のほか、バンコクから搭乗するヴィエンチャン着の便の2枚とも成田で発券できた。



新東京国際空港(成田)、第一ターミナルから出発

最後に出発口の脇にあるガラスのオブジェ、「ブルー・スカイ・イースト」の前で集合写真を撮り、手荷物検査、出国手続きに向かった。

NH953 10:55 成田発ー

16:05 バンコク着

バンコクに定刻より5分早く到着。ラオス行きの搭乗券は既に成田で受け取っているため新たな搭乗手続きは必要なく、ヴィエンチャ

ン行きのTG574便への搭乗までの約3時間半を巨大なスワナープーム国際空港内で記念写真を撮り、帰国時のお土産の事前物色などで過ごした。軽い夕食後に搭乗。

TG574 20:00 バンコク発 - 21:00 ヴィエンチャン着

ヴィエンチャン到着後、ホテルに向かう車中、参加者は皆、街の暗さにびっくり。ラオプラザホテルにチェックイン後、無事の到着を祝い、次の日からの日程確認後、解散。

2011年1月10日(月)

報告者；鈴木直樹・生井光雄

10:00 ラオス教育省表敬

ホテルを出発して5分程、ヴィエンチャン市内の4大通りの一つ、サムセンタイ通りの真中あたりに教育省がある。建物の構内に入り、分館のところまで暫く待っているとリー・フン中・高等教育局長との面会が許可された。しかしながら副大臣については、会議中とのことで、翌日時間を調整して挨拶を行うこととなった。

○リー中・高等教育局長からの挨拶

本日は遠い日本からの訪羅、心より歓迎します。これまで日本の連合とCSAは小・中学校建設や、ルアンパバーンの高校生寮整備による奨学支援等、地方の県に住む若者に対し教育の機会を与えて来られました。学生は勉強に励み、その後国立大学へ進学し、さらには留学制度により日本にも行くようになりました。支援して頂いている小・中・高校生の学生は皆、あなた方にお会いすることを楽しみにしております。教育省と致しましてもCSAの渡邊様には心からお礼申し上げます。

○二戸団長より挨拶

日本から2011 WSTに8名で参加しました。今回の視察目的は、タイ・ラオスにおいて小学校2校訪問と倉庫訪問ならびにサンティパープ高校学生寮の視察です。CSAは小さな組織ですが国際NGOとして29年にわたりタイとラオスで救援衣類活動や教育支援活動を行って参りました。今後も我々働く仲間の貴重な浄財を有効活用し、日本とラオスとの友好のために頑張ることを誓います。

○質疑応答

Q1. 寮に住んで居る寮生の男女比は？

A1. 希望としては5対5。入寮すると皆仲良くなるので、良いことだと考える。

Q2. CSAで支援する学校/寮は教育の拠点であると思われるが、それ以外の教育の状況について伺いたい。

A2. 一般の学校も県内に点在はしている。各家庭の状況として子供を遠方の学校に入寮させるのは難しい状況である。子供の方も優秀な子は少なく、1家族4、5人の子供がいるとすると入寮の条件を満たす程まじめな子は1人程度である。女子生徒については、親元を離れさせたくないという家族の要望もある為、家庭内で積極的な就学支援が不足している面がある。

Q3. 就学率はどれくらい？ 先生の確保はどの程度ですか？

A3. 小学校の就学率は100%、小学校から中学校へは60%、中学校から高校へは34%になる。人数としては中学生24万人、高校生が16万人程度である。中・

高校が遠隔地であるため通学ができなくなること、家業を継がなくてはならない、などの理由で就学率が低くなっている。

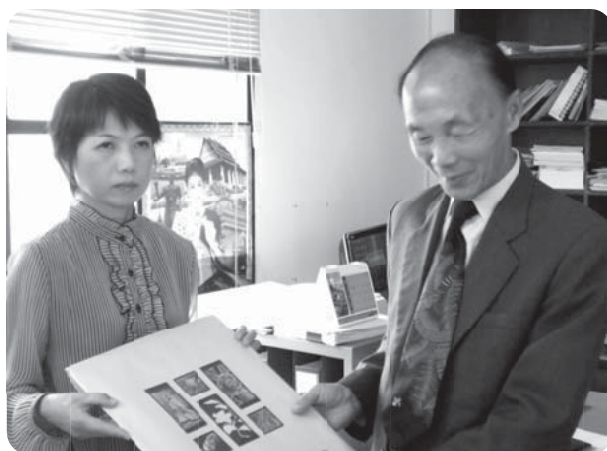
中学高校の先生は不足しており1万7千人程度となっている。学校数も足りなく、また教師の人材育成が課題である。

Q4. 日本では学校でのいじめ問題が深刻となっているが、ラオスでもいじめはありますか？

A4. ラオスでもいじめはあるが、そんなに多くない。ラオスには49の少数民族で成り立っている社会でありそれぞれ言語も異なるが、例えば「自分は少数民族だから恥ずかしいので学校をやめる」、「友達とケンカをしたから学校をやめる」という人は少ない。逆に、学校をやめて家の仕事を手伝うように家族が勧めてしまうことがある。また教え方にも問題があるのかもしれない。

Q4. ラオスは基本的に農業国ですが人材育成を通じてどのように発展していきますか？

A4. 政府の方針として2020年までに工業国としてのインフラを整備する計画を立てているが、一朝一夕に行えるとは考えていない。日本政府との協力で水力発電所も建設しており、橋や国道の整備も進んでる。中国、ラオス、マレーシア間に新幹線を通す計画もある。自然破壊等の問題もあるため、農業との調和も含めて気長にやっていくつもりである。



リーフン局長に日本のカレンダーを手渡す二戸さん

その後、チャルーン初等教育局長が会議出席中のため、カムカン副局長と懇談した。

11:00 ラオス保健省表敬

教育省表敬の後、サムセーンタイ大通りを通り抜け、メコン河を左に見つつ、約10分後にラオス保健省に到着した。2階の会議室には既に席が準備されており、ナオ・ブッタ官房長に迎えられた。その後、ブンクアン・ピチット保健省副大臣から歓迎の挨拶を受けた。

○ブンクアン副大臣からの挨拶

CSAから毎年救援衣類を送っていただいていることに感謝します。今年も40フィートコンテナを5本を送っていただきました。そのうち1本は労働省と協働し地方に配布します。中古衣類はとても役立っており、心



保健省でブンクアン副大臣と

からお礼申し上げます。保健省はラオス日本友好協会の会長を務めており、日本の支援に常に感謝しています。今後も協力をよろしくお願いいたします。

○二戸団長からの挨拶

この団は、CSAが教育支援活動を行っているタイ・ラオスにおいて小学校建設、サンティパープ高校学生寮、また救援衣類を送る運動で送った衣類が保管されている倉庫を視察します。CSAは29年にわたりタイとラオスで救援衣類活動や教育支援活動を行ってきました。今後も、日本とラオスとの友好のために努力してゆきます。

その後、保健省から団員一人一人に感謝の記念品が贈られ、今回の視察が実り多きものであるようにという激励を受け退席した。

2011年1月10日(月) (午後)

報告者：石橋 俊彦

場所：ナラオ村小学校訪問

教育省、保健省の表敬訪問を終えた後、ワットイ空港近くにある地元の人たちが通うレストランで昼食。ホッと一息と言いたいところだが、実質的にラオスで初めての食事で、どんなものが出てくるかわからず皆、戸惑い気味に麺類などを注文。緊張しながら待ち、出てきた料理が見た目も味も思ったよりも普通でメンバーはようやく一安心。

約1時間バスで移動し、午後2時、11番目に建設したヴィエンチャン県ナラオ村の小学校に到着。校長のブルンティアム・パンタサート先生らに「心待ちにしていました」と歓迎される。この小学校には1年生から5年生まで計24クラス935名の生徒が通い、ラオ族が1/3弱、残りの2/3強はモン族が占める。自宅ではそれぞれの民族の言葉を話しているが、学校ではラオス語。特に低学年は言葉に苦労する生徒も少なくないが、1年生から両民族一緒のクラスで授業をしており、高学年になると皆ラオス語が上達する。科目は算数、国語、社会(歴史)、理科、スポーツのほか、刺繍などの物づくり、踊りや歌など文化を学ぶ時間もある。宿題もあり、教科書に書いてある問題に家で取り組むという。スポーツはサッカーが一番人気で男女関係なく熱心に行っているとのこと。首都近郊ということもあり最近ではプレスクールや私立の小学校もできてきている。親の職業は農業が大半だが、織物業や商業の方もいる。生徒の90%は1km圏内から通う。後から駆けつけた教育省の



ナラオ村小学校で、文具などを子どもたちに手渡す

の生徒たちももっとラオス語を早く上達すると思う、とのことだった。教科書以外のノート、ペン、制服は親が用意する。家庭の事情で用意できない生徒にはPTAから供与されている。修学旅行や遠足は予算がなく、まだない。

レクチャー後、運動場で上級生の体操を見学し、記念品の贈呈式に移った。樋川団長より挨拶を行ない、ボールや文房具を生徒に手渡す。続いてフンペンさんのリードの下、上級生が男子チームと女子チームに分かれ綱引

きを行なうことに。「綱引き」と聞いて、子どもたちからは“どよめき”が起こる。対戦を見守る生徒たちも“ソウソウ、ソウソウ(頑張れ、頑張れ)”と応援。人数で勝る女子チームが勝利。その後、先生チームとCSAチームが対戦。我々に対しても子供たちから熱心に応援があり、大いに盛り上がる中、対戦開始。子どもたちの応援が効いたのか意外にもCSAチームが勝利。懇親の盃を交わし、お互いに名残を惜しみながら、16時過ぎに出発。再び国道を戻る。

夕食は、サンティパープ高校の寮を卒業し、ヴィエンチャン大学に通っている大学生6名を迎えての懇親会。大学生から一人ずつ自己紹介。環境分野などのエンジニア志望あるいは語学など文科系を志望する学生も。大学生が語る将来の夢を聞きながら「自分にもそんな頃が昔あったよな」との声がCSA側から上がる。CSA側も樋川団長から順に自己紹介を行ない、最初はお互いにやや緊張気味だった両者の間も時間とともに打ち解け、あっという間に時間が過ぎた。最後に大学生の今後の活躍を祈念し、樋川団長の一本締めでハードスケジュールのラオス1日目を終えた。



サンティパープ高校寮卒業生たちと。
Singlee君は4月から日本に留学予定

2011年1月11日(火)

報告者：生井 光雄

08:45 ラオス保健省倉庫視察

ヴィエンチャン市郊外にある保健省倉庫へ視察を行った。施設見学を行い救援衣類の中から私の支部(IHI労連横浜支部)から送った救援物資を確認し、確実に現地に渡っていることを確認することができた。

また三菱重工労組の鈴木さんも同労組支部から発送されたダンボール箱を確認。そのほかUIゼンセン同盟のシールの貼られた箱も多数あった。

倉庫にはCSAから40ftコンテナ5本のうち4本が搬入され、ここからラオス各地に随時、配布されている。



倉庫で組合の救援衣類を見つけた生井さん

10:00 ラオス在日本国大使館表敬

鈴木団長より訪問の目的と今後のCSAの活動についての報告と、日本とラオスとの友好のため頑張ることをお誓いしますと伝えた。

富田二等書記官よりラオスの現状について報告を頂き、その後会談を行った。

○二等書記官より現状報告

ラオスは多民族国家であり49の少数民族からなります。近年ではGDPが8%の成長率を達成したが、世界金融経済危機を受け、若干低下しており7.6%である。

日本との友好関係は大きな懸案もなく維持している。日本の支援は、空港、道路、水道の建設・整備などを行っており、功績を称えられ紙幣や切手などの絵柄にもなり日本の支援もラオスの人たちに浸透している。

教育に関しては、基礎教育がされていないと就職出来ない所以で今後は、基礎教育に力を入れていかなければならない。

その他問題点として、戦争時の不発弾が埋まっている地域があり、国からの証明がないと開発が進まないことと、ここ数年外国人が多くなり物価が上昇して経済的には良くなってきているが、その反面もち米の価格も値上っているので困っています。



ラオス日本大使館にて

○会談内容

Q1. 日本の援助状況はどうなっていますか。

A1. 援助状況は毎年10月に協議を行い、各国とのバランスを見ながら行っている。

中国は、利益を得るために支援を行っている。日本、オーストラリアは無償で援助を行いラオスの経済に貢献している。韓国も支援を始めているが、人材と黒板など支援を行っている。

Q2. 物作りの技術の発展を2020年までに目標に考えているが、今後の対応策はどう行っていくのか。

A2. ラオスの人たちはいい人たちだが、厳しく指導するとやらなくなるのでマインドを合わせて教育しなければならない。今後は、ラオスの人々が仕事を覚えラオスの人に教えるようにしたほうがいい。

Q3. 日本は技術提供しているが、中国・韓国みたいにラオスは日本を追い抜くことが出来ますか。

A3. ラオスは日本を抜くことは難しいだろう。国内の需要も伸びないため外国の企業に頼らざるを得ない問題がある。

14:00 ラオス教育省表敬訪問

10日に教育省表敬訪問した際、急な会議開催のために面会が延期された副大臣を再度表敬訪問し、挨拶を頂き、その後会談を行った。

野村団長より訪問の目的と今後のCSAの活動についての報告と、日本とラオスとの友好のため頑張ることをお誓いしますと伝えた。

○副大臣挨拶

ようこそラオスへ。日本の連合・CSAには支援して頂き感謝しています。

ラオスは最貧国に入っているが、日本からの支援で小学校は良くなってきているが、

中学校・高校はまだ問題がある。

○会談内容

Q1. 地方の学校はどのくらい不足していますか。

A1. 良い状態の学校は半分ほどあるが、一方、草屋根の学校もある。中には2～3年しか持たない程度の学校もある。学校の不足数は、高校で100、中学校で500、小学校で2000足りない。

Q2. 図書館、図書室に関してはどのように考えていますか。

A2. まだ不足しているので大至急考えなければならない。また、楽器等も不足しているので対処していきたい。



教育省次官に記念品を手渡す野村さん

16:20 ルアンプラバンに移動

ヴィエンチャン発国内線にてルアンプラバンに17:15に到着。
皆さん三日目お疲れ様でした。

2011年1月12日(水)

報告者；大場正晴

10:30 トンパンビライ村小学校(12番目校) 視察

小学校まではルアンパバン市内より幾つもの集落や山を越え、また途中からは未舗装の道を砂を巻き上げながら、走ること約2時間で到着した。

現地ではロイ村長、ムンスー校長の対応を頂いた。生徒数は199名、うち女子は95名。3年生と5年生は2教室あり、遠い村からは3年生から入学してくるとのこと。教室内を見ると室内には電灯がなく、黒板も表面がペニャペニャした柔らかい作りのもので、机も2つを1つにして6人前後が座っていた。日本とは大きく異なる環境だったが、生徒たちはみんな笑顔いっぱい私たちを迎えてくれた。



トンパンビライ村小学校 教室の様子

生井団長による訪問団代表挨拶の後、5年生と対面し、文房具、ボールなどを贈呈した。その後、生徒たちの綱引きや訪問団チームと先生チームによる綱引き対抗戦(訪問団は惜敗)を行ない、交流を深めた。

13:00 衣類贈呈式

小学校を視察後、近くの中学校に移動して衣類の贈呈式を行なった。

到着時には、すでに多くの村人の皆さんが待っており、郡長さんからは「衣類の支援は大変助かります。連合、CSAの支援に心から感謝申し上げます。支援して下さいる皆

さんに御礼の気持ちを伝えて頂きたい。日本とラオスの友好のためにも私たちはもっと勉強しないとイケない。この地域も学校が不足しており、壁がない学校もあります。友好を深めるためにもまたお越し下さい。」と述べられた。

衣類贈呈式の後、「バーシー」の儀式で歓迎して頂きました。これは、祭壇を車座で囲み、祈祷の後に祭壇の竹刺にある綿糸を、村人の皆さんがお祈りを唱えながら私たちの手首に巻いていくという、健康と安全を祈る儀式でした。最低3日間は結んでいなければならないとのことで、訪問団全員が一昔前のアイドルのようなフリフリの衣装？ となり、厚い歓迎を受けた。生涯、忘れることのできない贈呈式になりました。



衣類贈呈式

2010年1月13日(木)

報告：樋川昌己

10:00 サンティパーブ高校寮訪問

10時にサンティパーブ高校寮に着くやいなや、寮生や寮母さん、先生方のお出迎えを受けました。その後、高校寮の食堂に移動して開催セレモニーが行われた。

セレモニーでは、寮母の先生から歓迎の挨拶とサンティパーブ高校寮の現状報告があった。現在、寮には90人(1学年30人)の寮生が暮らしている。

私たちのメンバーを代表して、JFEスチール本社労働組合の石橋団長より挨拶があった。ラオスの人たちの暖かさ、誠実さ、家族を大切にする心の豊かさを称え、今や拝金主義になりがちな日本も一昔前はラオスのようであったこと、戦後の日本が立ち上がったように、皆も一生懸命に勉強し、国に貢献すれば必ずラオスの向上につながる、といった激励の挨拶を英語で行った。



サンティパーブ高校寮



歓迎の花束を受け取る石橋団長

ラオス保健省からナオ・ブッタ官房長がCSA救援衣類と共にヴィエンチャンから訪れ、挨拶後に高校への衣類贈呈式が行われた。衣類は生徒が心待ちにしている、ここでも私たちの送った衣類が確実に役立っていることが分かった。

その後のセレモニーでは、寮生によるラオスの民族踊りの披露があり、私たちも見よう見まねで踊りに参加させて貰った。ここの生

徒は「ラオスの文化を守る大会」で優秀な成績を収めているだけあり、見事な踊りを披露してくれた。また、ツアーのメンバーにも歌を歌って欲しいとのリクエストがあり、メンバー全員で「上を向いて歩こう」を歌った。その他にも、セレモニーでは寮生が作った料理と一緒に食べたりし、その後、私たちへの歓迎と道中の無事を祈ってのバーシーセレモニーを行って貰った。

最後に、寮生の部屋を一通り、見学させて貰った。1部屋に6人が共同生活をしており、自分たちの施設を大事に使おうとしている様子をうかがい知ることが出来た。



寮生の皆さん

報告：渡邊ひな子

16:10 バンコクへ移動

昼食後、世界遺産であるルアンプラバン市内や織物の村を視察後、ルアンプラバン空港よりバンコクに向けて出発した。

16:10 PG946 ルアンプラバン発 18:10 バンコク着

約1時間後、バンコクに到着。バンコクはラッシュアワーのまっただなか、マイクロバスの中から周りの街の景色を眺め、ラオスとの相違を改めて実感しつつ、ホープランドホテルにチェックイン。メンバーのほとんどが段差のある別館に部屋を割り当てられていたが明日はもう出発なのであまり気にしない。その後、あわただしく夕食会場のタイスキ・レストラン、コカに行った。コカでは新武ツアーの坂々さんがお出迎え。在タイ十数年の坂々さんを交えて、タイの実情をうかがいながら夕食懇談会。

食事の終わり頃に、部屋の明かりが消え、ろうソクに火がともされたバースデーケーキが、従業員の「ハッピーバースデー」の歌と共に運び込まれた。バンコクで迎える二戸さんのバースデーをメンバー全員でお祝いしました。



海外で迎えるバースデー

2011年1月14日(金)

報告者：野村 勇／石橋俊彦

タイ日本国大使館、タイ社会福祉省／同倉庫訪問

9:15 ホテル出発、

9:40 在タイ日本大使館到着(珍しくラッシュに合わなかったとの事)

10:00～ 4階会議室にて 本日団長は大場さん

- ・大場団長の挨拶(得意のダジャレもなく、真面目で素晴らしい挨拶でした。)
- ・元林稔博一等書記官の挨拶(自己紹介を兼ねて)……イケメンです。

NTT入社 連合岡山副書記長、連合岡山地協事務局長、国際労働財団を経て大

使館へ

- ・タイの諸事情概要について、元林稔博一等書記官より説明を受ける。

Q1：街と農村の格差を埋めるには

A1：農民支援として、固定資産税やバイクタクシーのローン減税など

Q2：貧富の割合は

A2：金持ち……5% 中流……35% 貧困……60%

貧困60%は北部と東北部がほとんど灌漑(かんがい)設備が無く雨が降らないと作業出来ない

Q3：識字率は

A3：90%強で教育支援は終わっている

Q4：中国パワーは

A4：中国だけではなく 韓国の進出も目覚ましい

今回のツアーもいよいよ最終日。午前10時、在タイ日本大使館を表敬訪問。情報労連(NTT労組)出身の元林稔博一等書記官に対応いただく。大場団長によるご挨拶の後、元林書記官よりレクチャーいただき、質疑応答を行なう。ここ数年の政情不安の経緯について大使館前で起きた銃撃戦の生々しい体験談も交えて説明を受け、メンバーも今回見たラオスと比較しながら質問を重ねた。リーマンショックや政情不安にも関わらずタイ経済は堅調を維持しているが、一方で観光業は影響を受けており陰りが懸念されている。政情不安の背景には、特に都市部の農村部の経済格差があり、例えば、GDP総額は世界35位だが、一人当たりGDPは93位、また就業者が全体の半数を占める農林水産業がGDPに占める割合が1割強しかないことが実態を如実に表している。さらに同国の労働事情、労働組合事情、ODAによる空港や高速道路、橋などをはじめとするインフラ整備あるいは人材育成を含む技術協力など日本の支援状況について丁寧な説明を受けた。自動車の資産価値が高いため借金を厭わずに購入する人が多いこと、日本から1,000社を超える企業が進出しているが優秀層がまだまだ少なく人材不足に悩んでいること、周辺諸国から流入している人々によって経済が支えられていること、日本の支援方針は「自立させる」ことである、といった説明が強く印象に残った。



在タイ日本大使館前で

13:00～ タイ福祉省表敬訪問・倉庫視察

- ・ビデオで2008～2010のCSA救援衣料の様子を紹介して貰った。(10分くらい)

今年の救援衣料は40Ft.コンテナ13個分(15,578kg) 1,317万パーツ(3,764万円)相当

- ・名刺交換、・ツアー全員自己紹介
- ・大場団長の挨拶
- ・ペンシリ部長の挨拶：タイの国民と政府本部を代表して深く感謝致します。同じ人間の

温かい気持ちが伝わってきます。タイ国民は助け合いの精神があります。早く自立出来る事を望みます。

・倉庫視察での意見

- ①ダンボール表示をタイ語でしてほしい
- ②大人の男性衣料を希望

昼食後、タイ社会福祉省を表敬訪問。社会発展担当のペンスリ・コモラット女史、CSAからの支援衣類保管倉庫担当する部長であるスチートラ・ピタヤノラサーテ女史はじめ多くの関係者の歓迎を受ける。昨年のCSAの活動に関するスライド上映の後、大場団長、渡邊事務局長の挨拶に続いて、全員より自己紹介。コモラット氏から「友好の気持ちは貴重で日本の皆さんの温かい気持ちが伝わってきます。タイ国民の感謝を日本の皆さんに伝えてほしい」等と挨拶いただき、双方の記念品を交換した。



対社会福祉省のブリーフィング

その後、バスで移動し福祉省が所管するCSAからの支援衣類保管倉庫を訪問。おもちゃ人形を含む支援衣類の段ボールは同倉庫にて開封され、内容別に分類して整理し



CSAの支援衣類を届ける専用トラックと衣類

て保管・送付を行なっている、との説明を受ける。タイでは77ある県に福祉省の担当者があり、それぞれ県単位で衣類のリサイクルを行なっている。支援衣類を必要とする地域は、当然、農村部がメインとなるが、山岳部も多いことから、必要量はその年の天候、あるいは地域の大きなイベントなどに左右され、各県内のリサイクルで不足が生じた場合に、CSAの支援衣類が使われているとのこと。県の担当者が必要量を取りに来るか、あるいは倉庫の担当者が大小2台の専用トラックで

各県まで届けている。高速道路を利用しながら一回に複数の県を回って配付している。丁寧に管理され、ニーズに応じて効率的に配付されていることにメンバーも納得。ただ、払出量などについて精密な統計は現時点取っていないとのことであった。パントゥ部長はじめ担当者の皆さんに大場団長より記念品を贈呈し、引き続きのお互いの取り組みを誓い合った。

18:50～お別れ夕食会

- ・元林稔博一等書記官も駆けつけて頂き、とても楽しく和やかな時間でした。元林一等書記官の経験ならではの貴重なお話を聞く事ができました。

23:55 バンコク発

全ての公式行事を終え、夕食までのわずかな時間を利用して、バンコク市内の視察に。王宮を遠くに確認しながら、国王夫妻の写真が道の中央部に数多く掲げられた官庁街を

抜け、暁の寺(ワット・アルン)へ。急な階段を上るとチャオプラヤ川を行き来する多くの船、寺院、低層の旧市街、そして高層ビル群と東南アジアを代表する大都市を一望でき、ラオスとはまた違う一面を知る。続いてお釈迦様の涅槃像で有名なワット・ポー(涅槃寺)を参詣し、仏教国であることを改めて実感。

高速道路を利用して約2時間かけて空港近くの建興酒家というレストランへ。元林書記官を迎えてツアー最後の食事を行なう。

大場団長の発声で乾杯し、元林書記官より午前中に続いてタイの国情などを伺うとともに、メンバーで今回のツアーを振り返りつつ名残を惜しんだ。終了後、スワンナプーム空港へ向かい、慌ただしくチェックイン。深夜便にて一路、成田へ。

約5時間のフライトで定刻通りに成田空港に到着。入国審査を滞りなく全員終え、渡邊事務局長により解団式を行ない、再会を約して解散した。



元林書記官を交えた最後の夕食会

2010年1月15日(土)

07:30 成田空港着

07:55 入国審査手続きを経て、渡邊事務局長の解団宣言のあと、再開を約束し各自帰路に着きました。大変お疲れ様でした。

